

# 若者の視点で考える少子化対策

～早い時期からの体験学習の大切さ～

---

## 別府大学

文学部 史学・文化財学科 3年

岩瀬 有紀

国際経営学部 国際経営学科 3年

井元 純史

不二原 勇作

# 少子化がおこる原因

---

- ・ 女性の社会進出による晩婚化
- ・ 非正規雇用者の増加による経済不安
- ・ 近所付き合いの希薄化
- ・ 核家族化の進行
- ・ 乳幼児や子どもたちと触れ合う機会の不足

---

など



# コミュニケーションの希薄化

---

・近所付き合いの希薄化により地域交流が減少、協力して子育てをする環境が減った

・核家族化・少人数家族化により  
コミュニケーションをとる場が減った

---



# なぜ？

---

住宅事情

マンションやアパート  
個人の生活に干渉しない



個人のプライバシーを尊重  
個々の生活を大切にする



人とのコミュニケーションを  
あまりとらない

# 具体的にどうすれば良いか

---

- ・大学生の立場から少子化問題に取り組んでみた
- ・「総合ゼミⅡ」の講義でコミュニケーションの重要性やコミュニケーションスキルを身につける学習をした。
- ・「新聞の読み方」を学び、自分の意見を新聞に掲載していただくなど、社会と自分の生活を結びつけることを学んだ。
- ・「子どもを産み育てること」を学ぶため「乳児院」に体験実習することとなった。
- ・乳児院の院長先生の講義をお聴きした。
- ・そして、実際に現地で学ばせていただいた。

# 乳児院 栄光園を訪れて



とても貴重な体験・・・



# 座学では感じることのできないもの





子どもが欲しい、自分も親になりたい



# 子どもとコミュニケーション

実際に触れ合う

↓ 意識が変わる

子どもが欲しいと思う

**その気持ちが大切**

# 百聞は一見にしかず

- ・理屈ではなく心に何かを感じた
- ・たった一回の実習で大きな変化

# 結論

もっと早い段階から、  
子どもたちとの触れ合いを経験していれば、  
意識は変わる

そのことを、  
大学生の自分たちが身を持って体験した

## たとえば、学校教育の中で…

- ・ 子育てに関連するような  
子どもとの触れ合い実習を増やす
- ・ 自由参加や地域のイベントでは弱いので、必修科目のような形で学校教育に多く取り入れる





多くの若者たちにこの感動体験を

